

キャンプ生活をとおして実施し、特に女子活動の振興をはかるため積慶寮において(9月25~28日)三泊四日の女子青年指導者講習会を実施した。なお県連青との共催で中央青年団講習会(8月8~10日)を積慶寮で、県下青年問題研究会(1月9~11日)を婦人会館で開催した。

第十一回県下青年産業研究発表大会

働く青年たちの生産学習の振興をはかるため例年のおり本大会を二月十・十一の両日県立福島農高校で開催、それが地域社会にどう発展したか。

県が行ったこのような事業は地域社会にどう発展したろうか。現在青年学級は各市町村に開設され、その数五八二、学級生数三四、二五二人(男一八、八九五人、女一五、二八九人)(三二、三、三一日現在)となっているが、実際の運営に当っては、施設・設備、教具・教材の面、指導者の面、学習内容の面と幾多の問題をもっている。こうした現状を少しでも改善しながら、働く青少年に真に役立つ力あるものにしてようと、各都市の地公連が中心になって、青年学級研究会・運営研究会・青年学級大会・青少年教育研究会などがたれ、それが各市町村にまで拡大された。そのため従来のゆき方に相当強い反省がみられ、教養主義的な一斉授業の形態から、青年の生活と地域の産業経済に結びついた職業教育を主にした方向へ新たな工夫が加えられ

つつある。

また、青少年の自主的な集団である青少年団体においては、各都市団体ごとに指導者講習会・研修会・青年問題研究会がもたれ、これまでの団体活動に対する批判と検討が加えられ、お祭りのな総花的な行事中心のゆき方から、自分たちの生活をたかめていくために、自分たちをとりまく家庭的・社会的な環境を自らの手によって改善していくための学習活動が、グループやサークル活動をとおして盛んに行われつつある。特にサイクリング、キャンプ、ハイキングなどの野外活動への関心が高まった。蚕業研究発表地方大会は、新生活運動協会からの助成があったためにもよると思われるが、県下二八か所で開かれ参加者数約一、五〇〇(うち発表者五六〇)という例年にみられないものがあつた。

こうしたほかに青年たちの県組織である県連青は、県下青年体育文化祭・弁論・討論大会・青年大会・青研集会など、自らの手によって開くなど地についた活動がすすめられた。

残された問題は何か

最近青少年指導の重要性がよく認識され、各市町村においても、いろいろ施策が講じられるようになった。しかし県内においても市町村においてもけっして満足すべき段階ではない。否、その重要性がかんがみ、もっともっと本質的な施策が積極的に講じられなければならないように

に思われる。例えば、

青少年をとりまく社会環境の整備には、もっとも腰をいれなければならないし、児童会館とか博物館・公民館・図書館・児童遊園地・青少年の家、教育キャンプ場など、青少年のための恒久的な施設・設備や教具教材の整備充実には、もっともっと計画的な施策が講じられる必要がある。

また、青年学級とか定時制高校・通信教育など働く青少年のための教育機関の再検討など、本質的に解決をせまられている問題が山積しているように思われる。

る。

これらの問題については県や市町村の教育行政の立場から充分考えられなければならない問題ではあるが、一面一般行政の面からも充分考慮されなければならない問題のように思われる。

こうした問題のほかに、自主的な青少年団に対する指導助言への工夫・少年教育の問題・問題青少年の保護育成の問題・未組織青少年の指導など今後努力せねばならない問題がたくさんある。以上のような残された問題といかにとりくむかが来年度の大きな課題である。

昭和三十二年 重点を置く事業計画とその実施状況の概要

計 画 概 要	実 施 状 況
<p>○青年学級研究会 対象 青年学級主事、講師、講師補佐 公民館職員 内容 青年学級の学習内容と方法</p>	<p>県下四か所 会津 5月8~10日 2泊3日 積慶寮 県南 5月14~16日 日和田町公民館 浜 5月21日 久之浜町 県北 5月27~29日 岩代町小浜公民館</p>
<p>○青年指導者講習会 対象 青年団体リーダー 内容 教育キャンプ</p>	<p>県下四か所 県南 7月16~18日 2泊3日 玉川村 会津 7月22~24日 〃 押立 県北 7月27~29日 〃 土湯 浜 8月2~4日 〃 鹿島町 県連青との共催</p>
<p>○中央青年団指導者講習会 対象 郡市団体のリーダー 内容 青年団の諸問題 ○女子青年指導者講習会 対象 女子青年 内容 女子活動の内容と方法</p>	<p>積慶寮 9月24~27日 3泊4日</p>